

Message from President



学長挨拶

広島経済大学は、1967（昭和 42）年、歴史ある武田山の麓に開学しました。大学の経営母体である石田学園創立の理念は「和を以て貴しと為す」、大学開学の理想は「大学の道は明德を明らかにするに在り」であり、こうした理念理想のもと、教育の拡充を図ってきました。経済学部、経営学部、メディアビジネス学部の 3 学部を備える社会科学系の総合大学として、次代を担う人材である「ゼロから立ち上げる」興動人、すなわち既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神を持ち、仲間と協働して何かを成し遂げる力を備えた人材の育成を目指しています。

少子化という大問題が背景で進行する中、地方の私立大学が存在し続けるためには、大学の価値を学外に明確に示す必要があります。大学の価値は、研究と教育です。本学では特に教育を重視し、次代を担う学生を育成して国家社会へ貢献することに価値を置いています。時代にふさわしい、より良い教育を目指して**中期計画（2024-2028）**を策定しており、**この事業計画は<3年目>の位置づけ**です。



広島経済大学では、学生が仲間とともに切磋琢磨して今を生き抜くゆるぎない力を身につけることを願い、多様な学びと経験の機会を提供するよう、努力を続けてまいります。今後とも、あたたかなご支援ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

学長 石田 優子

建学の精神「和を以て貴しと為す」

広島経済大学の経営母体である学校法人石田学園は、明治 40 年に校祖石田米助翁によって創立されました。学園の創立にあたり、学園創立の根本的な目的である建学の精神を「和を以て貴しと為す」としました。

立学の方針「大学の道は明德を明らかにするに在り」

本学は、学生一人ひとりが、学問研究を通して、明德（本来持っている曇りのない本性）を磨き、前途有為な人間として自己を確立することを教育の理念としています。

教職員の行動指針「Be Student-oriented（すべては学生のために）」

Mission

「ゼロから立ち上げる」興動人の育成

少子化、AI やテクノロジーの進化、世界情勢の変化、多様化、コロナウイルスのもたらした価値観の変容など、私たちを取り巻く環境は急速に変化しています。混迷する時代に求められる人材とはどういう人か、私たちは問い続けてきました。そして掲げた人材像が、「ゼロから立ち上げる」興動人です。

興動人とは、既成概念にとらわれない斬新な発想と、旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材。本学では「興動人」を実践的に育成するために、「社会人として必要な学識を養う」、「人間力を培う」、「自分を表現する能力を身につける」ことを柱として、さまざまな取り組みや特色ある学習プログラムを実施しています。いかなる時代をも、明るくたくましく生き抜く力を育てることが、私たちのミッションです。



Vision

1. 長期ビジョン

安定した経営基盤のもと、特色ある高品質の教育で地域社会と経済の発展に寄与し、中四国地区で No.1 の教育力を誇る私立大学としての名声を確立する。

目指す姿

- ・ 学生であることに誇りが持てる大学
- ・ 地域の高校生誰もがあこがれる大学
- ・ 教職員であることに誇りが持てる大学
- ・ 卒業生であることに誇りが持てる大学



2. 中期ビジョン：2028 年度までの達成目標

特色ある教育プログラムを持つ、私立の社会科学系総合大学として、地域の教育界をリードし、次代を担う人材を育成する大学の地位を確かなものとする。

2028 年にどういう大学でありたいか

以下の3点において、No.1 の大学を目指します

1. 挑戦する大学

「学ぶのは、行動を興すため」という本学のポリシーにもとづき、変化をチャンスととらえ、機動力と独自性を発揮して挑戦しつづける大学になる。

2. 学生を伸ばす大学

地方中堅大学の利点を活かし、知識と経験を重視した教育と手厚い支援体制を確立。

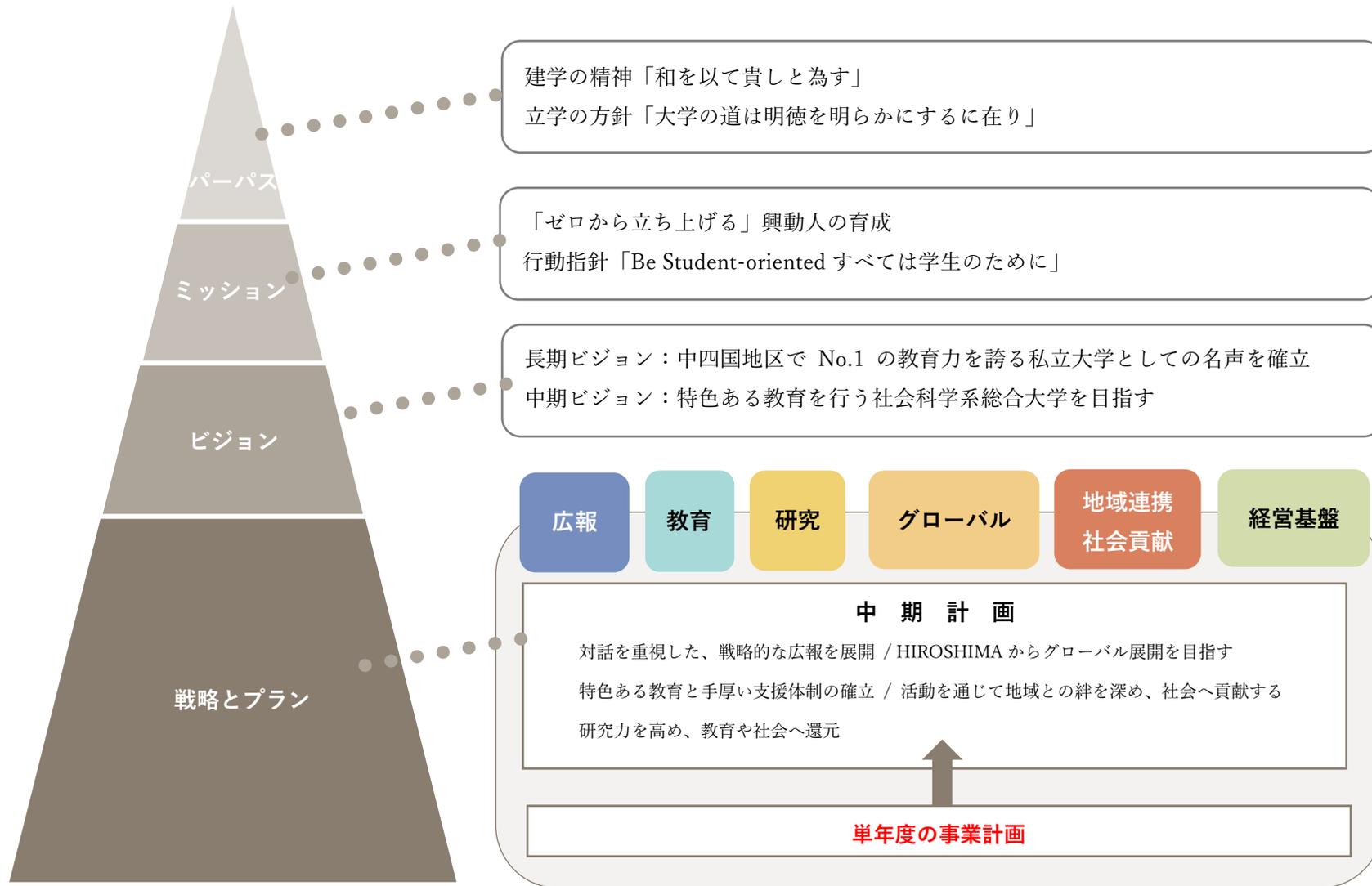
「興動館教育プログラム」の推進と、4年間一貫のゼミ教育を通じて

「最も学生を伸ばす大学」としての評価を獲得する。

3. 地域に愛される大学

人材の育成に加えて、研究力を高めて成果を発信し、社会の発展に寄与する。

学生の諸活動を通じて培った地域との絆をさらに深め、愛される大学になる。



Strategies

広報・ブランディング

「対話を重視した、戦略的な広報を展開」

大学の発信力を高める / ステークホルダーとのコミュニケーションの強化 / 情報公開体制の整備

教育

「特色ある教育と手厚い支援体制の確立」

興動人育成のための教育を促進 / 時代に対応した教育の展開 / 教育改革の促進 / 教育支援 / 学生支援 / 個性的な施設を活用した教育の推進

研究

「研究力を高め、教育や社会へ還元」

研究支援体制の整備 / 成果の教育への還元 / 成果の社会への還元

グローバル戦略

「HIROSHIMA を意識したグローバル展開を目指す」

国際交流事業支援 / グローバル教育の推進
キャンパスの国際化 / HIROSHIMA から世界へ

地域連携・社会貢献

「活動を通じて地域との絆を深め、社会へ貢献する」

地域連携の深化 / 大学のリソースの提供と学習機会の推進 / 興動館や立町キャンパスの活用 / スポーツや平和、文化を通じた地域活性化への取り組み

経営基盤

財政基盤の強化 / 危機管理体制の強化 / キャンパスの環境整備 / 内部質保証

アクション・プラン

本事業計画は、「2024-2028 中期計画」に基づき、3年次となる2026年度の重点および新規実施項目に関してまとめたものです。

なお、文章内の【 】は、中期計画に記載の文であることを意味しています。

1. 広報戦略

「対話を重視した、戦略的な広報を展開」 アクティブな学びを発信し、輝く広経大ブランドを確立

日頃の教育及び研究、学生の学びに関する活動といった情報の発信強化を通じて、
学びに真摯な大学としてのイメージ確立を目指します。

大学の発信力を高める

- ・【全学的な広報活動を推進すべく、教職員の意識改革をはかる】ため、日常の業務について、常に広報視点、客観的視点をもって取り組む。現場主義を心掛け、大学の各種イベントに参加して直接情報をつかみ、業務に活かすよう心掛ける。
- ・【教育と研究の成果が持つ社会的な価値を追求する】ため、学部学科から広報部門への情報提供が円滑に行われるよう、連携を強化する。

- ・教員の多様なネットワークを活用して、社会や企業と連携した実践的な学びを提供し、その発信に努める。
- ・配信する動画のアクセス数向上に向けた課題を検討し、改善に取り組む。



ステークホルダーとのコミュニケーションの強化

- ・【同窓会とのより一層の連携強化を図る】ため、公式 SNS について、同窓生への周知を継続し、フォロワー数の拡大を目指す。
- ・【高校および高校生への情報提供の工夫】として受験生専用サイトの開設に着手する。
- ・公式 LINE アカウントによる配信を強化し、学年や関心分野に応じた情報提供を行う。
- ・高校に対しては、「就職の広経大」を印象付ける情報提供を強化継続する
- ・オープンキャンパスや入試説明会における保護者等向けの内容をさらに充実させる。
- ・【研究成果の社会への還元を推進する】ため、地域社会と積極的に情報交換、情報提供を行う。

情報公開体制の整備

- ・法令に従って適切な情報公開を行うとともに、情報へのアクセス方法のわかりやすさなど、ステークホルダー目線にたった工夫をする。

2. 教育

「特色ある教育と手厚い支援体制の確立」

ゼロから立ち上げる「興動人」を育成する

広島経済大学では、既成概念にとらわれない斬新な発想と、旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材「ゼロから立ち上げる」興動人の育成を目標としています。変化する時代に対応し、興動人育成のための特色ある教育プログラムのブラッシュアップを図っていきます。

■ 興動人育成のための教育を促進

■ “ゼミの広経大”、学びの面白さを発信

『4年間一貫、少人数ゼミの特色を生かして、ユニークな活動を実施』

- ・【企業や地域と連携して、課題解決に向けた提言作成に取り組む活動の実施】を、すべてのゼミに広げるべく、2026年度もさらに実施するゼミを広げて、教員と企業や行政などの学外団体との連携によって関係構築を深め、学生が活動に参加し学びの面白さを体験することで成長を実感できるようなゼミ授業を継続する。

■ 興動館教育プログラムの充実

- ・【科目の充実と履修者の増加】に向け、各学科の特性を生かした興動館科目の充実について検討する。また、履修者の増加を図る。
- ・【興動館プロジェクトの充実】に向け、興動人入門ゼミで企画されたアイデアの中から実現可能性の高いものを抽出し、新規プロジェクトの立ち上げを働きかける。
- ・【既存プロジェクト活性化】のため、支援プログラムと【コーディネーターの充実】を図る。
- ・【科目の充実と履修者の増加】にむけ、科目創造センターが「興動館科目担当者会議」において、各担当教員から教育手法についてヒアリングを行い、共有を行う。

■ 時代に対応した教育の展開

■ 初年次教育の充実

- ・【リメディアル教育（学習支援）の充実】を目指す。
 - a) 総合型選抜、学校推薦型選抜合格者対象の入学前課題の進捗率を向上させるための施策を引き続き検討する。
 - b) 教員やスチューデントアシスタント（SA）による学習支援活動の充実に向け、ワーキングを通じて明らかになった問題点に対する改善策を検討する。

- ・【**アカデミックスキルの確実な修得**】のため、1年次必修の「入門ゼミ」の内容のチェックおよび改善を継続し、2026年度は新たに「キャリア教育」の内容を入門ゼミのカリキュラムに取り入れる検討を行う。

■ データサイエンス教育プログラムの周知と推進

- ・【**プログラムの周知と履修者数の増加**】のため、各学期初めのガイダンス等を通じてプログラムの重要性や科目内容を紹介し、学修への動機付けを図る。
- ・26年度より【**プログラムの履修必修化**】とし、全面オンデマンド授業とする。授業内容や方法については検証を続け、問題点の改善に取り組む。

■ 時代に対応する新たな教育方法の開発

- ・【**ICT技術を活用した教育（授業）の推進**】のため、オンライン授業マニュアルの更新を実施し、授業での活用事例集の作成を行う。
- ・教育現場における生成AIの活用に向け、教職員自身のリテラシーの向上を図るとともに学生や教員が行う教育研究の場でどのような利活用ができるかについて検討し、正しく利活用するルール作りを行う。
- ・【**IR（Institutional Research）による教育プログラムの改善支援**】として、教学課題に対して適切な改善策の提言を行えるよう、IR分析活動の範囲を広げる。
- ・HUENAVIの諸機能について教員の利用レベルの向上を図り、授業改善につなげる。

■ 教育改革の促進

■ 教養教育

『本学が目指す教養教育（良識ある日本人として国際人として生きていくために必要な教養）の理念と目的を確認し、時代に即応した科目の検討を行う』

- ・自己理解系科目および他者理解系科目について、内容の見直し、科目の改廃・新設、同一科目の複数クラス開講などについて、引き続き検討を進める。
- ・外国語科目については、レベル別の教育の拡充、語学の枠組みを超えて異文化理解も射程に入れた、より広い性格の科目群の設置を検討する。
- ・日本語文章表現科目（論理的思考）については、履修者の実態に沿って科目内容を精選する。文献から情報を的確に読み取る技能の習得を目指す科目の新設を検討する。

■ 経済学部

『地域社会に信頼される経済学部として、グローバルな視座を備えた、地域に貢献しうる人材を育成し、地域社会の発展に寄与する学部を目指す』

- ・【**理論と実践を組み合わせた経済学教育の確立**】に向け、新科目設置と経済学に興味を持つ教育プログラム構築の検討、併せて教育の成果を学内外へ発信する。その他、EREの推進、公務員試験の必須科目についてはその対策を検討する。

- ・【広島を中心とした地域経済の課題を分析し解決策を模索する】に向け、地域課題に取り組む新科目を設置し、この分野のコンテンツを充実させる。また、外部機関を巻き込む教育の仕組みや、地域社会へ教育成果を発信する方法論を確立する。
- ・【金融リテラシーから理論までを網羅する金融教育の確立】に向け、人生設計をふまえた体験型金融教育プログラム及び資格・検定の取得対策に取り組む。その他、日経ストックリーグなどコンテストへの参加方策を検討する。

■ 経営学部

『広島地域の企業を中心とした産学連携を強化し、実践的なビジネス教育を通じて、産業界をけん引する学部を目指す』

- ・【アントレプレナーシップの醸成による実業に結び付く教育内容の強化】に向けて、ゼミ単位での産学連携強化を図る。
- ・【産学連携をベースとした科目の見直し】については、産学連携に関係する科目やゼミの有機的連携を強化し、体系的にビジネスプランニング能力の育成を図る。
- ・スポーツ経営学科では、【スポーツビジネスを実践する力を養う科目体系の見直し】を進める。

■ メディアビジネス学部

『コンピューターや AI、情報通信、各種メディアの急速な進化と現代社会の要請に柔軟に対応し、新しい価値を創出し次代のビジネスを牽引できる有為なビジネスパーソンを育成する中四国唯一の学部を目指す』

- ・メディアビジネス学科では、【業界最先端の理論や知見を学ぶ学部科目の検討】に向け、メディアリテラシーと情報リテラシーを着実に身に着ける教育を行う。また、環境整備として、テレビスタジオとラジオブースのリニューアルを行い、有効活用する。
- ・ビジネス情報学科では、生成 AI リテラシーと生成 AI 活用スキルの修得に向けて環境整備を行い、全学での生成 AI の利活用に向けてリーダーシップを発揮する。
- ・【多様な進路と豊かな職業選択を考えさせるキャリアプログラムの開発】に向け、学部独自のインターンシップ先の開拓に加えて、実務家出身教員をはじめとする学部教員の持つ様々な人脈パイプを生かした「出口戦略」を検討し、従来以上に幅広いキャリアパスに関しての整備を行い、急速な社会変化に対応する。

■ 大学院経済学研究科

『社会の要請や学生のニーズに基づき、カリキュラムの充実、新設科目の検討、授業内容の見直し、大学院生のキャリアパスの拡充などを行い、研究の拠点として誇りうる大学院の創造を目指す』

- ・【税務会計分野のカリキュラムの充実】について、質量両面での拡充を目指し、教授陣の強化を図る。

- ・共同研究などを通じて産官学の連携を深め、研究成果や情報の外部との共有を行う。
- ・大学院生のキャリアパスの拡充については、5年プログラム生のためのキャリアプログラムの構築に着手する。
- ・大学院の社会人特別選抜制度と5年プログラム生制度を将来的に持続可能な体制にすべく学部教員からの補充とカリキュラムの充実などに取り組む。

■ 教育支援

■ ピア・サポートを支援

- ・教員と連携し、SAの人数の維持と更なる質の向上を図る
- ・「ピアサポーター養成講座」の受講対象を、SAのみならず学生同士が支援する活動全般に広げる。

■ フォローアップ体制の整備

- ・【ラーニングサポートコーナー（LSC）の活性化】に向け、学生によるテスト対策講座（日本語・英語・簿記）等をきっかけとして活用し、LSCでの個別相談へつなげる。SAによる講座だけでなく、教員による「資格講座」や「勉強会」を開催する。
- ・【SAのスキル向上を支援】するため、定期的に研修会を行うとともに、TOEIC等の検定の受験を促す。
- ・【成績不振学生に対する早期対策】として、成績不振となる学生を早期に抽出、担当教員や部・サークル顧問等と教育・学習支援センターが連携して、学生を補習へ導く。
- ・各学期初めの全学生を対象とした履修指導や、1年次後期及び2年次前期終了時におけるフォローアップガイダンスを継続する。

■ 学びへの挑戦をサポート

- ・【資格取得支援講座の充実】に向け、情報系講座（生成AIパスポート試験、G検定）、経営・労務管理系講座（統計検定3級）を新設する。
- ・資格情報の動画コーナー設置や参考図書コーナーの充実を図ることで、学生が自主的に集い、学ぶ場の構築を目指す。
- ・教育・学習支援センターやキャリアセンターなど関係部署が連携し、英語の検定や公務員試験、教員採用試験など、同じ目標を持つ学生がともに励ましあって学べる環境の整備（研究会など）を目指す。

■ 学生支援

■ 奨学金制度

- ・学業成績優秀者奨学金の他、課外活動奨学金（学費減免を含む）や、アクティブ奨学金などの支援制度について、効果性の面から再検討を図る。

■ 「オーダーメイド」の就職支援

- ・就職活動の早期化・長期化・二極化に対応するため、全員面談における学生1人あたりの面談回数を増加する。
- ・企業訪問の際、情報収集を行うと同時に、学内合同企業セミナーへの参加を依頼する。
- ・【公務員合格者数の増加をはかる】ため、希望者を把握し、対策講座への参加を促す。
- ・【地元就職を目指す学生の支援】のため、Uターン就活講座の内容を充実させる。
- ・【学部の特性に見合う就職先の開拓】として、特にメディアビジネス学部の特性に見合う就職先について、教員と連携して開拓する。
- ・【低学年次からのキャリア教育強化】として、キャリア科目の履修を促す。

■ 女子学生支援

- ・キャリア支援として、「女子学生支援関係科目」を継続する。先輩（卒業生を含む）の話を聞く回を設定し、キャリア形成について考える機会を提供する。
- ・広報活動やイベント運営を通して、学生スタッフのスキル向上をサポートする。

■ 学生活動の支援

- ・退学予防対策に関して、【学生対応に関する学内連携を促進】する。早期からの継続的な対応に向け、担当教員、教育・学習支援センター、学生課、教務課間の情報共有の仕組みを整備し学内連携を促進する。
- ・多様な学生への対応として、学生相談室と保健室に加え、教務課と連携する仕組み作りを促進する。
- ・【学務センター スポーツ支援課による支援体制を確立】として、以下に取り組む。
 - a) 大会案内や結果、部内ニュースをタイムリーに開示する事で、支援者を増やす。
 - b) 体育局を支援し、学生が組織運営に主体的に取り組めるよう組織を改編し、各部サークルとの連携を密に取るよう促す。
 - c) 定期的な研修会(熱中症、SNS、薬物等)と講習会(初期救急対応)を実施し、学生自身の知識向上を目指す。

■ 個性的な施設を活用した教育の推進

■ 「知の館」としての図書館

- ・【情報資源の拡充】に向け、各学部の教育目標に沿った専門的資料と「多様性の理解」が深まる資料のバランスを考慮し、拡充を図ることを継続する。
- ・【図書館情報リテラシー教育】として、2年次生対象の新たな文献ガイダンスを実施する。併せて1年次生及び3・4年次生対象ガイダンスのブラッシュアップを行う。
- ・【非来館型サービスの充実】に向け、学外アクセス可能な電子資料の利用促進を図り、また、時代に即した設備への改修案の検討を進める。



(左：ピア・サポート、右：キャリア支援)



(左：新入女子学生 Welcome Party、右：部・サークルリーダーズ研修会)

■ 「創造の館」としての明德館

- ・ 明德館の利用促進のため、明德館で実施する行事や授業の増加を目指す。
- ・ アクティブ・ラーニングに関するFD研修会の実施や、授業への導入事例集の作成を継続する。

■ 「実践の館」としての興動館

- ・ 興動館教育プログラム改革「興動館 NEXT10」に基づき、改革及び改善を図った様々な事業について、引き続き点検・評価を行い、更なる質向上を図る。

■ 世界遺産島内「特別な経験の場」としての成風館

- ・ 成風館を利用したゼミ合宿等活动への支援を継続する。
- ・ 興動館メンバー対象研修会やイベント、合宿等での利用を促進し、特別な経験の場での学生の成長を後押しする

■ 「情報教育の中核」としてのメディア情報センター

- ・ 必携ノートパソコンを快適に利用するための環境の維持管理に努めるとともに、ノートパソコン活用のための充実した学習サポートを継続的に実施する。



(左上：図書館、右上：明德館、左下：宮島 成風館、右下：興動館)

3. 研究

「研究力を高め、教育や社会へ還元」 社会科学分野における「知の拠点」を目指す

地域の活性化、格差問題、環境破壊など社会の問題に向き合って意義ある提言を行い、地域と連携して、持続可能な社会をともに作ることを目指します。また、研究活動を大学内部だけに限定せず広く実業界や市民社会に拡大していくことを通じて、社会科学を主たるフィールドとする大学として、その責任を果たします。

■ 研究支援体制の整備

■ 支援体制の充実

- ・ 成果による研究費配分の見直しをはかる。
- ・ インパクトファクターの高いジャーナルへの投稿を後押しする。
- ・ 教員の研究業績である研究双書、学術図書の出版の援助を充実する。
- ・ 科学研究費助成事業及びその他の外部資金獲得のための支援を充実する。

■ コンプライアンスへの取り組み強化

- ・コンプライアンス教育、研究倫理教育を実施し、研究不正防止体制を整備する。
- ・研究費の適正な管理体制の整備を継続する。

■ 研究成果を教育や社会へ還元

- ・教員の研究から得られた新たな知見を授業やゼミに反映するよう努める。
- ・地域社会が直面している課題解決を通じて、地域に貢献する大学としての価値を示し、研究成果の情報発信を推進する。

4. グローバル戦略

「HIROSHIMA を意識したグローバル展開を目指す」 ここから世界へー 真のグローバルリストを育成

世界のどこにいてもすぐにつながれる時代、世界はずっと身近になりました。世界への一番のハードルは、もはや私たちの意識そのもののように見えます。本学では、学生が世界とつながる経験を積み、世界とともに生きる意識を身に付けられるよう、環境を整えます。

■ キャンパスの国際化

- ・【留学生と日本人学生の交流、学びあいの促進】に向け、異文化交流が進むような学内外でのイベントを実施する。
- ・インターナショナル・コミュニケーション・グループ VIVA（学生グループ）の活動を支援し、より多くのイベントに学生が深く、主体的に関わるよう導く。活動を通じて、学生自身の人間力や英語をはじめとする外国語運用力の向上を目指す。

■ 国際交流事業支援

■ 世界で活動する学生プロジェクトを支援

- ・海外での活動を伴う興動館プロジェクトへの助成を継続する。
- ・【上記プロジェクトが、高校生や地域社会に対し、活動を通じて学んだ問題を伝える事業を展開する】よう後押しする。

■ 海外の関係校との連携の強化

- ・姉妹校や協定校、NIBES 加盟校との関係を強化する。
 - a) 台湾の3大学と連携し、興動館科目「広い世界を体験してみよう」の短期体験留学を実施する。また、台湾以外の国での実施の検討も行う。
 - b) これまでのタイでのプログラムを、短期体験留学プログラムに発展的に転換する。

- ・【新規の姉妹校や協定校の開拓】として、2025 年度に新たに締結した台湾の元智大学（Yuan Ze University）ビジネススクールとの学生交流を推進する。
- ・その他、長期語学留学プログラム（英語）として、派遣先大学の選定を進める。



（右：短期交換留学プログラム STEP の開講式）

■ グローバル教育の推進

- ・留学生の受け入れ→学内外での国際交流活動→学生の送り出しという好循環を意識しながら、その強化を図る。
- ・交換留学生のプログラム拡充においては、地域との連携も意識する。
- ・派遣留学数の目標値は、前年度以上とする。
- ・短期体験留学の拡充とともに、長期語学及び交換留学プログラムへの誘導も図る。
- ・英語による専門科目を増やし、カリキュラムの国際化を図ることで、アカデミックな観点からの交換留学生の受け入れをバックアップする。また、日本人学生も留学生と共に学ぶ機会を選択できるように、留学生科目の授業構成を整える。

■ HIROSHIMA から世界へ

- ・【HIROSHIMA から世界へ】、広島がスポーツや平和における「世界のハブ」となるための施策に協力するとともに、学生の意識改革を支援する。
- ・「VIVA」（前述の学生グループ）による、交換留学生と学部日本人学生が平和公園での活動“PEACE Program”を今後も拡充する。
- ・学生 2 名が広島・モントリオールメッセンジャーに選任されている。イベント活動を通して広島と世界をつなぐ活動を展開する。
- ・【広島で学ぶことの意義を伝える教育プログラムを構築する】ため、具体的な教育プログラムの設置検討に取り組む。
- ・自治体、近隣の教育機関、外部団体と連携するため、外部資金の獲得を目指す。

5. 地域連携・社会貢献

「活動を通じて地域との絆を深め、社会へ貢献する」
人材育成を通じて、社会の未来に貢献する

次代を担う若者にとって、学びの中で社会と連携する経験は非常に重要であり、そうした経験をより多く積むことで地域に貢献しようと願う人材へと成長していきます。本学では教育機会、人材育成を通じて、地域と連携し、貢献することを目指します。

■ 地域連携の深化

■ 地域連携事業の促進

- ・【行政や地域団体と連携し、学生目線での提言や活動が行えるような機会を増やす】ため、まずは産官学連携活動のデータベース構築を行い、それを用いて、教員と地域団体とのマッチングを進める。
- ・【社会貢献分野に関する新たな興動館プロジェクトの立ち上げの推進】に向け、地域連携協定を結ぶ安佐南区社会福祉協議会等から情報を得て新規カウンターパートの開拓を行い、学生とマッチングする。
- ・祇園町商工会との連携については、防災インフラ共創プロジェクト（時報 CM）を継続するとともに、その他連携の裾野を広げていく。
- ・外部資金の獲得増を目指し、県・市町の助成金制度の拡充などの働きかけを行う。
- ・学生と地域で開催する「祇園・興動祭」を継続して実施する（第 21 回目）。



（左：祇園商工会との協定式、右：祇園・興動祭の様子）

■ 地域企業との連携の強化

- ・包括協定を締結している企業や官庁との連携を強め、提携事業を推進する。
- ・【研究を活かした新たな産官学連携協定先の開拓】のため、本学教員の研究実績最新動向を収集・管理する仕組みの検討を続ける。

■ 大学のリソースの提供と学習機会の推進

■ 社会人向けのキャリアアップ・プログラム（CP）

- ・オンデマンド講座の拡充など、受講生のニーズを捉えた授業方法の改善を検討する。
- ・【受講者数の増加を目指す】ため、ターゲット層の興味・関心に沿った媒体への広告出稿を検討する。
- ・リカレント教育やリスキリングを意識して内容の充実をはかる。
- ・【CP受講者が受講後も交流できる環境の支援】として、コミュニティ作りを目指す。
- ・オンデマンド講座の拡充など、受講生のニーズを捉えた授業方法の改善。

■ リソースを地域へ還元

- ・地域対象の公開講座を充実し、周知をはかってより広い還元を目指す。
- ・自治体、企業や地域団体と連携関係を作り、課題解決に向けた調査・分析・提案への協力を推進する。

■ スポーツや平和、文化を通じた地域活性化への取り組み

- ・「国際スポーツサロン」を継続して開催する。
- ・安佐南区社会福祉協議会との地域連携協定に基づき、災害時のボランティア体制及び学内の体制について、文書化、規程化を行う。



（写真：国際スポーツサロン 2025年11月開催、広島国際会議場）

6. 経営基盤

■ 財政基盤の強化

- ・教育活動資金収支差額の支出超過を改善するため、学生数の確保を目指し、収支バランスの均衡を図り、長期的に安定した経営基盤を構築する。
- ・2026年度の新入生の予想人数から、26年度予算も学生納付金の増加が見込めず、その結果として教育活動支出が収入を大きく上回り、大変厳しい予算になることが判明した。メディア情報センタースタジオリニューアルや1号館トイレ改修、2号館外壁改修、空調設備・照明の更新など、学生の学びの環境整備に不可欠な支出も計上しているが、教育研究経費、管理経費の執行について、教育の質を担保した上で、業務の見直し、合理化に取り組むよう各部署に対して継続して要請することで教育活動収支の均衡を図るよう努力する。
- ・教育活動外収支については、適切なリスク管理の下で安全面に配慮した資産運用や保有資産の活用を行い、安定的な財務基盤の確立を目指す。

■ 危機管理体制の強化

- ・事業継続計画（BCP）は随時更新し、その周知をはかる。
- ・学内備蓄品を購入整備するための計画を立案し、備蓄場所の確保等を検討する。
- ・学内教職員参加の防災訓練を実施する。
- ・危機管理マニュアルの見直しと周知、防災訓練に合わせて、部門会議などを実施する。

■ キャンパスの環境整備

- ・【SDGsを意識し、事業の効率化やペーパーレスを推進】することを継続し、会議のさらなるペーパーレス化を目指して啓発する。
- ・【施設のカーボンニュートラル化を進める】べく、空調設備の高効率化と建物の高断熱化を行う。
- ・メディア情報センターのスタジオ設備機器を全面的にリニューアルし、デジタル化への対応および取材用カメラの小型化を実現する。

■ 内部質保証

- ・第4期認証評価基準で自己点検評価を実施する。自己点検評価報告書について、毎年度の事業計画・報告、中期計画との連携を図り、PDCAサイクルの充実を図る。
- ・日本私立大学協会ガバナンスコード第2版に準拠して、評価・報告を実施する。
- ・休補講情報の調査など適正な授業実施について監査を行う。
- ・授業改善や学生対応に関するFD研修会を継続して実施する。
- ・職員能力育成については、JMA大学フォーラムに変わる職員能力育成プログラムの導入と対面研修会の充実を図る。
- ・対面研修会は、分野別、階級別（特に管理職）に、定期的な実施を目指す。

資金収支予算書

2026年4月 1日から
2027年3月 31日まで

(単位：円)

収入の部		
科目	予算	備考
学生生徒等納付金収入	3,012,200,000	
手数料収入	46,900,000	
寄付金収入	1,500,000	
補助金収入	665,800,000	
資産売却収入	130,000,000	
付随事業・収益事業収入	50,500,000	
受取利息・配当金収入	837,100,000	
雑収入	35,200,000	
借入金等収入	0	
前受金収入	441,000,000	
その他の収入	175,000,000	
資金収入調整勘定	△ 460,000,000	
前年度繰越支払資金	2,397,900,000	
収入の部合計	7,333,100,000	

支出の部		
科目	予算	備考
人件費支出	1,953,400,000	
教育研究経費支出	1,459,500,000	
管理経費支出	238,500,000	
借入金等利息支出	0	
借入金等返済支出	0	
施設関係支出	187,000,000	
設備関係支出	125,500,000	
資産運用支出	700,000,000	
その他の支出	21,200,000	
(予備費)	100,000,000	
資金支出調整勘定	△ 21,000,000	
翌年度繰越支払資金	2,569,000,000	
支出の部合計	7,333,100,000	

事業活動収支予算書

2026年4月 1日から
2027年3月 31日まで

(単位：円)

教育活動収入の部	事業活動収入の部	科目	予算	備考	
		学生生徒等納付金	3,012,200,000		
		手数料	46,900,000		
		寄付金	500,000		
		経常費等補助金	665,800,000		
		付随事業収入	15,500,000		
		雑収入	35,200,000		
		教育活動収入計	3,776,100,000		
	支事業活動の部	支事業活動の部	科目	予算	備考
			人件費	1,945,400,000	
		教育研究経費	2,008,800,000		
		管理経費	270,700,000		
		徴収不能額等	0		
		教育活動支出計	4,224,900,000		
教育活動収支差額			△ 448,800,000		
教育活動外収入の部	収入事業活動の部	科目	予算	備考	
		受取利息・配当金	837,100,000		
		その他の教育活動外収入	35,000,000		
		教育活動外収入計	872,100,000		
	支事業活動の部	支事業活動の部	科目	予算	備考
			借入金等利息	0	
			その他の教育活動外支出	0	
	教育活動外支出計	0			
教育活動外収支差額			872,100,000		
経常収支差額			423,300,000		
特別収支	収入事業活動の部	科目	予算	備考	
		資産売却差額	14,900,000		
		その他の特別収入	3,000,000		
		特別収入計	17,900,000		
	支事業活動の部	支事業活動の部	科目	予算	備考
			資産処分差額	5,300,000	
			その他の特別支出	0	
	特別支出計	5,300,000			
特別収支差額			12,600,000		
(予備費)			50,000,000		
基本金組入前当年度収支差額			385,900,000		
基本金組入額合計			△ 314,500,000		
当年度収支差額			71,400,000		
前年度繰越収支差額			52,100,000		
基本金取崩額			0		
翌年度繰越収支差額			123,500,000		
(参考)					
事業活動収入計			4,666,100,000		
事業活動支出計			4,280,200,000		

学年暦

2026年2月24日時点

<p>【4月】 入学式 新入生セミナー（江田島） 新入生各種ガイダンス 前期授業開始 興動館プロジェクト認定式</p> <p>【5月】 高校教員対象大学説明会 学内合同企業説明会 学生大会</p> <p>【6月】 定期演奏会 オープンキャンパス</p> <p>【7月】 オープンキャンパス 研究倫理及びコンプライアンス研修会</p> <p>【8月】 前期学内定期試験 夏季休暇 前期追試験 夏季集中講義 オープンキャンパス</p> <p>【9月】 前期再試験 大学院Ⅰ期入試 総合選抜型入試（興動館選考型） 教職員セミナー 後期授業開始 前期学位記授与式</p>	<p>【10月】 総合選抜型入試 （学部学科、スポーツ選考型） 3年生対象就職ガイダンス 大学祭 全学ゼミ対抗スポーツ大会 国際スポーツサロン</p> <p>【11月】 祇園・興動祭 学校推薦型選抜入試 同窓会総会</p> <p>【12月】 興動館プロジェクト活動報告会 冬季休暇</p> <p>【1月】 新年互礼会 創立記念日 後期学内定期試験</p> <p>【2月】 新規興動館プロジェクト立ち上げ説明会 後期追試験 一般選抜・共通テスト利用選抜Ⅰ期入試 学内合同企業セミナー 後期再試験 大学院Ⅱ期入試</p> <p>【3月】 一般選抜・共通テスト利用選抜Ⅱ期入試 学位記授与式 学生定期健康診断</p>
---	---